


東北財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、回復しつつある」

項目	前回（元年10月判断）	今回（2年1月判断）	前回比較
総括判断	回復しつつある	回復しつつある	

（注）2年1月判断は、前回元年10月判断以降、2年1月に入ってからからの足下の状況までを含めた期間で判断している。


（判断の要点）

個人消費は、スーパー販売が堅調であるほか、コンビニエンスストア販売やドラッグストア販売が前年を上回っているなど、緩やかに回復している。生産活動は、輸送機械が弱い動きとなっているものの、生産用機械は底堅い動きとなっているなど、一進一退の状況にある。雇用情勢は改善している。

【各項目の判断】

項目	前回（元年10月判断）	今回（2年1月判断）	前回比較
----	-------------	------------	------

個人消費	緩やかに回復している	緩やかに回復している	
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用情勢	改善している	改善している	

設備投資	元年度は増加見込み	元年度は増加見込み	
企業収益	元年度は減益見込み	元年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超幅が縮小	「下降」超幅が拡大	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
公共事業	高水準となっている	高水準となっている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果や復興需要を背景に、景気が回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性に加え、消費税率引上げ後の消費者マインドの動向などに留意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復している」

スーパー販売は主力の飲食料品が堅調で前年並みとなっているものの、百貨店販売は衣料品が天候要因等から低調となっており、前年を下回っている。コンビニエンスストア販売は冷凍食品やデザート等が好調で前年を上回っている。ドラッグストア販売は新規出店効果のほか、化粧品や日用品等が好調で前年を上回っている。ホームセンター販売は前年を上回っている。家電販売はテレビやパソコン等が好調となっている。乗用車販売は前年を下回っている。旅行は国内で台風第19号の影響がみられたものの海外は順調となっている。このように、個人消費は、緩やかに回復している。

(主なヒアリング結果)

- 総菜は簡便志向から引き続き好調となっており、売場面積の拡大もあって売上を伸ばしている。10月以降はキャッシュレス決済のポイント還元を背景に客足が伸びており、購買点数も増えている。(スーパー、中小企業)
- 9月は宝飾品やブランド品が好調だったほか、化粧品のまとめ買いの動きもみられ大きく伸長したが、10月以降はその反動がみられた。また、台風により休日の来店客数が減少したほか、暖冬で冬物衣料の動きが鈍くなっている。(百貨店、中堅企業)
- ポイント還元によりキャッシュレス決済が伸びており、人気のデザートを複数購入する動きもみられる。(コンビニエンスストア、大企業)
- 9月は比較的高額な化粧品や風邪薬などにまとめ買いの動きがみられた。10月はその反動減対策として販売促進を強化したほか、台風への備えて水やパンなどが売れたこともあり、落ち込みがなかった。(ドラッグストア、大企業)
- 9月は駆け込み需要で売上が伸長した。10月以降は反動がみられたものの、テレビがオリンピックに向けて好調となっているほか、パソコンも一部OSのサポート終了に伴う買替需要により好調となっている。(家電量販店、大企業)
- 10月は台風の影響などもあり前年を下回ったものの、11月以降は台風で被災した車両の買替需要が生じた。(自動車販売店、中小企業)
- 海外旅行は引き続き好調となっているものの、国内旅行は行楽シーズンの10月三連休に台風の影響でキャンセルが多数発生した。(旅行代理店、中堅企業)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

電子部品・デバイスはスマートフォン向けの一部で好調となっているものの、自動車向けや産業機械向けなどで低調となっている。輸送機械は海外向けの自動車用エンジンなどで弱い動きとなっている。生産用機械は半導体メーカーで設備投資を増やす動きがみられることなどから、底堅い動きとなっている。このように、生産活動は、一進一退の状況にある。

- スマートフォン向けは、主に中国メーカーからの受注により生産量が増加している。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- 車載向けは、北米や欧州を中心とした海外からの受注が減少している。中国をはじめとした世界全体の景気減速が背景にあると考えている。(電子部品・デバイス、大企業)
- 産業機械向けは、米中貿易摩擦等の影響により国内外の各メーカーが設備投資を控える状況が続いており、落ち込みが顕著となっている。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- 自動車用エンジンは、北米での販売実績が振るわず減少している。(輸送機械、大企業)
- 海外半導体メーカーの一部では設備投資を増やしている。(生産用機械、中堅企業)
- 国内も含め、中国、欧米など全世界的に自動車関連が落ち込んでいる。(生産用機械、中堅企業)

■ 雇用情勢 「改善している」

雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移しているほか、完全失業率が低水準となっているなど、改善している。

- 新たな人手の確保が難しい状況にある中、小売業などでは業務の効率化や雇用形態の見直し等により、離職防止の対応に注力する事業所もみられており、求人減少の一因となっている。(公的機関)
- 建設業では、台風19号の被害に伴う復旧工事に関連する求人もあり、高水準で推移している。(公的機関)

- **設備投資** 「元年度は増加見込み」(全産業)「法人企業景気予測調査」元年10-12月期
 - 製造業では、木材・木製品等で減少見込みとなっているものの、輸送用機械、化学等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
 - 非製造業では、運輸・郵便等で減少見込みとなっているものの、小売、金融・保険等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- | | |
|------------------------------------|-------------|
| ➢ 生産ラインの改良投資や建屋増築工事により増加する見込み。 | (輸送用機械、大企業) |
| ➢ 新規出店費用のほか既存店舗の修繕・補修費用により増加する見込み。 | (小売、大企業) |
- **企業収益** 「元年度は減益見込み」(全産業)「法人企業景気予測調査」元年10-12月期
 - 製造業では、情報通信機械等で増益見込みとなっているものの、輸送用機械、電気機械等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業では、宿泊・飲食等で増益見込みとなっているものの、建設、運輸・郵便等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
 - **企業の景況感** 「『下降』超幅が拡大」(全産業)「法人企業景気予測調査」元年10-12月期
 - 現状(元年10~12月期)は「下降」超幅が拡大している。先行きは「下降」超幅が縮小する見通しとなっている。
 - **住宅建設** 「前年を下回っている」
 - 新設住宅着工戸数をみると、分譲が前年を上回っているものの、持家、貸家が前年を下回っていることから、全体としては前年を下回っている。
 - **公共事業** 「高水準となっている」
 - 前払金保証請負金額は、震災関連工事等が減少しており前年度を下回っているものの、引き続き高水準となっている。
 - **消費者物価** 「前年を上回っている」
 - **金融** 「貸出金残高は、前年を上回っている」
 - **企業倒産** 「件数は前年を上回っており、負債総額は前年を下回っている」

3. 各県の総括判断

	前 回 (元年10月判断)	今 回 (2年1月判断)	前回比較	総括判断の要点
青森県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直しつつある。雇用情勢は改善している。
岩手県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は緩やかに回復しており、生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は改善している。
宮城県	緩やかに回復している	緩やかに回復している	➡	個人消費は緩やかに回復しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は改善している。
秋田県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は持ち直しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は改善している。
山形県	緩やかに回復している	緩やかに回復している	➡	個人消費は緩やかに回復しており、生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は改善している。
福島県	回復しつつある	回復しつつある	➡	個人消費は緩やかに回復しており、生産活動はおおむね横ばいの状況にある。雇用情勢は改善している。